

新たな地域福祉サービスの創造「ダイア ログする（対話）地域社会」の実現

社会福祉法人 クラブハウス町田
〒194-0022 東京都町田市森野 3-19-13

助成事業の概要

（実施目的）精神障害者の地域における実践を行ってきた方々を講師とし、毎回講演後、ミーティング方式で対話を中心とした交流を図り、精神障害に広く携わる人の理解と認識を深め、家族を含めた包括支援として新たな地域支援サービスの創造につながることを目的として研修会を実施しました。

（実施時期）平成27年9月26日から平成28年3月12日の間で、全4回のシリーズ講演「対話（ダイアログ）する地域社会」を行いました。

第1回 平成27年9月26日（土曜日）

テーマ 精神障害者の快復

講師 浅野弘毅先生（東北福祉大学せんだんホスピタル院長）

会場 町田市民フォーラム会館 会議室（参加者45名）

浅野氏の実践から、精神障害についての理解、回復をどのように捉えていくかについての講演を行った。

第2回 平成27年12月12日（土曜日）

テーマ 障害者権利条約と精神保健福祉法

講師 池原毅和先生（東京アドボカシー法律事務所所長・内閣府障害者制度改革推進会議差別禁止部長）

会場 町田市民ホール 会議室（参加者36名）

権利・人権を踏まえ互いの存在を認め、理解し考え合うことから、障害を持つ人が社会の中の一員

としてあたりまえに生きて行く事についての講演が行われた。

第3回 平成28年2月6日（土曜日）

テーマ 精神障害 回復へのアプローチ

講師 当事者、家族、家族支援、当事者支援関係者

会場 町田市民フォーラム会館 会議室（参加者42名）

地域の中で互いに支え合うこと、より良いコミュニケーションとは何か、よい関係・よい交流がもたらす効果などについての体験報告や考察がなされた。

第4回 平成28年3月12日（土曜日）

テーマ 「オープンダイアログ」を考える

講師 斎藤 環先生（筑波大学医学医療系社会精神保健学教授）、大熊 一夫（ジャーナリスト、元大阪大学大学院人間科学研究科教授）

会場 町田文化交流センター 5F 会議室（参加者89名）

斎藤氏からは有効な治療法として、今世界から注目されているフィンランドの実践・オープンダイアログについての話を、大熊氏からはイタリア精神医療の現状とイタリアでのオープンダイアログの取り組みの状況の講演が行われた。

事業の成果

今回の事業の成果

今回は、「対話（ダイアログ）する地域社会」

というシリーズで、全4回の企画で講演会を行いました。

地域に向けて専門家（精神科医、弁護士）から発信する講演を2回、それを受けて地域の援助団体や障がい当事者がどのような取り組みをしてきたのかということで地域から発信する報告講演会を1回、そして、第4回目は、その集大成として「オープンダイアログを考える」というタイトルで、施設内にとどまらず、地域の中でいかに対話を継続することが可能になるのか、というシンポジウムを行いました。会場内では、シンポジストに招いた専門家だけではなく、障がい当事者、家族、地域で援助する専門家、市民などとのやり取りも行われました。

モノログ（独語）は普段から、それぞれの人たちがそれぞれの立場でできていますが、それを超えてダイアログが可能になるには、お互いを知り、理解し、お互いを必要とすることがなければなかなかその飛躍には至らないものと思われます。今回の企画はこれに向けた取り組みとして、そのやり取りを試みてみました。

今回会場でのやり取りから、十分ではないまでも、共に生きる社会（共生社会）を目指していくには、理念だけではなく、その実践も一步一步積み重ねていくことが必要なことが共有されたのではないかと思います。

これを今後も繰り返し実践していくことで、地域の中でより理解を深め、少しでもダイアログ、対話する共生社会の実現が目指されていかなければならないと、考えます。

各講演会後の、参加した当事者や家族から、「回復への焦りから悪くなっていた家族との関係が、講演を経てから、障がい特性への理解が深まり、気持ちに余裕が生まれ、家族との関係が少し良くなった。」という報告がありました。第4回目のオープンダイアログの講演会の後には、「家に帰ってから家族でオープンダイアログを試みて

みた」という報告もありました。アンケートからも参加した多くの方々から対話を用いた実践への期待が感じられました。

今後ともこのような実践は、地道に繰り返していくことが必要なことと思います。

今回の講演会では貴財団法人の助成により、先駆的な活動をしてきた講師を複数招くことが出来、またその講演会に毎回多くの参加者に来場していただくことが出来ました。貴重な機会をいただき感謝しております。これからも地域に向けた啓発活動を続けていきたいと思っております。

成果の広報、公表

- 当団体の機関紙に掲載
- 当団体の掲示版への掲示
- ホームページに掲載
- 法人内会議での報告（役員・職員・家族・利用者）
- 当日参加出来なかった方への資料提供・配布
- 地域の会議にて報告

今後の展開

今回、参加者の声をより今後に反映できればと思い、講演会後毎回（全4回）アンケートをとりました。

アンケートの結果、①新たな知識を得る機会となったこと、②精神障害者の回復を考える上で対話の力の重要性と可能性についての気づきがあったことが毎回とも共通する内容でありました。

このことより、地域の中で、当事者、家族、関係者、市民等、様々な人が集い、学び、日々の思いを語り、お互いの力をより引出すような対話を重ねていくことが、新たな地域福祉の創造と発展につながる事になると考えられます。

今後も参加者による交流と対話を取り込んだ方式の講演会を継続していきたいと考えています。